



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町 7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 25-06

1月号

発行 2023年1月24日

Chartered 1998

会長 山本 剛史郎
副会長 松川 厚子
会計 吉田 公代
書記 吉野 勝三郎

クラブ会長主題「温故知人」「明日に向かって新しい出会いを！」

国際会長 Ulrik Lauridsen 氏(デンマーク)

主題 Let Your Light Shine

(あなたのライトを輝かせ)

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen(台湾)

主題 “Elegantly Change with New Era”

(新しい時代とともに、エレガントに変化を)

東日本区理事 佐藤重良 (甲府 21)

主題「未来に向けて今すぐ行動しよう」

関東東部部長 工藤大丈(ベイサイド)

主題「新規技術(テクノロジー)を縦横に 駆使し、効率を重んじる。

すべては、プレミアムな価値と体験を産むために」「成せば、成る」

“No challenge, No fruit”

1月の聖句

すべての民よ、手を打ち鳴らせ。
神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ。
詩編 47 編 2 節

Oh, clap your hands, all you peoples!
Shout to God with the voice of triumph!
Psalm 47:1

2022年12月の統計(12月10日)

在籍9名 出席者8名(リモート含む)出席率89%

巻頭言

幸せなら手を叩こう 会長 山本剛史郎

2023年となり今年で川越ワイズメンズクラブは25周年を迎えます。本来ならば25周年行事を行いたいところだが、コロナ禍の影響もあり今年は東西日本区交流会、ワイズメンズクラブ100周年行事、アジア太平洋地域大会など大きな行事が目白押しで、川越ワイズメンズクラブ25周年行事は少し遅れて行う予定である。

自分自身、YMCA、ワイズメンズクラブに関わるきっかけは、何と言っても埼玉YMCAの行ったフィリピン・ワーク・キャンプである。1994年7月、埼玉YMCAが行っていたフィリピン・ワーク・キャンプに参加し、約2週間、フィリピンのタラ村(ハンセン病の村として有名)とパンガシナン州ダグーパン市にあるパンガシナンYMCA

に行き、そこでトイレ作りや植樹作業をしながら、フィリピンにおける第二次世界大戦、日本軍による占領について、また自分自身を見つめなおすセミナーなどを受けるというものだった。ここでそのフィリピン・ワーク・キャンプについて詳細を書くことはできないが、普段、日本でのほほんと暮らしている学生にとって発展途上国での2週間はいろいろと衝撃的だった。この経験が後にYMCAへのサポート、そしてワイズメンズクラブに入会するに至るきっかけであった。

ところでフィリピン・ワーク・キャンプといえば「幸せなら手をたたこう」という歌が有名である。(以下、一部クリスチャン新聞からの抜粋)この歌の作詞者は、木村利人(早稲田大学名誉教授、日本基督教団・霊南坂教会員)である。木村さんは学生時代、日本のYMCAを代表してフィリピン農村でのワークキャンプに参加した。フィリピンは太平洋戦争の激戦地で、日本兵がフィリピン人を虐殺するなど、反日感情が残っていた。そんなフィリピンの若者たちとの交流を通して誕生したのが、「幸せなら手をたたこう」だ。木村さんは「この歌には、現在の平和の喜び、楽しみを、お互いが態度で示していこう、二度と悲惨な戦争を起さないという誓いが込められている」と語る。詞は「すべての民よ、手を打ち鳴らせ」(詩編47編2節または1節)から「幸せなら手をたたこう、幸せなら態度で示そうよ」になった。数年前にも「幸せなら手をたたこう」誕生秘話を描いた、NHK BS1 スペシャル「幸せなら手をたたこう～名曲誕生の知られざる秘話～」が放映された。私もこの放送を見ながら、フィリピン・ワーク・キャンプのことをいろいろと思い出した。

2023年1月 例会プログラム(予告)

日 時:1月28日(土)14:00~16:00

場 所:埼玉 YMCA 川越センター

リアルと Zoom によるハイブリッド例会

卓 話:山口みどり氏(大東文化大学教授)

「イギリス留学よもやま話」

山口みどりさんは大東文化大学教授でイギリスジェンダー史、社会史を研究分野にしています。卓話タイトルにもあるようにイギリスへ留学し、英国国教会での女性聖職者、ジェンダー論について研究されてきました。山崎ワイズと同じ教会、日本聖公会川越キリスト教会の会員であり、今回、川越ワイズメンズクラブでイギリス留学よもやま話をさせていただきます。Zoom でも行いますので、ぜひ、多くの方に参加していただきたいと思います。

12月例会報告

山本剛史郎

2022年12月10日(土)午後2時から、埼玉 YMCA 川越センターにおいて、川越ワイズメンズクラブの例会を行いました。最初は、利根川恵子さんが次期アジア・太平洋地域会長ということで、ワイズメンズクラブ国際協会、アジア・太平洋地域というグローバルな面と動きについて話してもらいました。2022年8月1日現在で、国際協会に加盟しているのは1,543クラブ、23,422名で、全体的には減少傾向にあります。2022年はワイズメンズクラブ100年ということもあり、またコロナ禍による行事のずれ込みも重なり、今年2023年は2月に東西日本区交流会、3月に台湾で100周年記念祝賀行事、8月にアジア・太平洋地域ユース・コンボケーション、11月にはアジア・太平洋地域大会が行われる予定である。川越ワイズメンズクラブも25周年を迎えるのだが、これほど大きな行事が続くこともあり、25周年記念例会は次年度に回すことにしたい。川越の皆様には利根川恵子さんがアジア・太平洋地域会長になる11月3日からの香港でのアジア・太平洋地域大会にはぜひ皆さんで参加しましょう。

また、続いて川越センターに集まっている子どもたちと合同でクリスマス会を行いました。まずはお互いに自己紹介を行い、それぞれ「最近、はまっているもの」、「頑張っていること」などを話してもらいました。それぞれユニークな自己紹介でした。そして、クリスマスとは何かという簡単なクイズを交えた話をした後、お楽しみ品のプレゼント交換を行いました。プレゼント交換はビンゴを行い、ビンゴになった人から好きなプレゼントを選べるという方法で行いました。

コロナ禍のため飲食などは行わず、本当に短い時間でしたが、子どもたちと交流ができ、クリスマス会が行えたことを感謝したいと思います。これからも埼玉 YMCA 川越センターを支えるグループとして川越ワイズメンズクラブはささやかながら力になれたらと改めて感じました。



クリスマスについて学びました



ワイズから参加した子ども達へのプレゼント

在京ワイズ新年会報告

吉野勝三郎

2023年1月7日(土)午後、日本キリスト教団早稲田教会で開催された会合に出席しました。川越クラブからは、私以外に、次期アジア太平洋地域会長の利根川恵子ワイズと山本剛史郎会長が参加しました。恵子ワイズは、今年7月1日からの次期地域会長として、現在の地域会長 Charming Shen(台湾)ワイズの通訳としても、大切な役割を果たされました。又、山本会長は、参加者中唯一和服でした。

まずは、早稲田教会の古賀博(こが ひろし)牧師の説教では、ウクライナの戦争について触れられました。日本でも親しまれている「てぶくろ」というウクライナの民話の紹介がありました。この民話を題材にして日本人ミヤザキケンスケさんが書いた壁画がウクライナのマリウポリにあるそうです。このように日本人に親しまれているウクライナが、ロシアによる突然の侵攻により多くの命が奪われ、社会インフラが破壊され、住む家もなくなっているという戦争状態に一日も早く終止符が打たれ、平和がもたらされるよう祈りました。

その後、訪日中でゲストとして参加されていた Charming Shen 地域会長が、コロナ禍のため昨年開催予定だったアジア太平洋地域のワイズ100周年記念が、今年3月10日から12日、台湾・台北市で開催さ

れることになったので、東日本区からも多くのメンバーが参加して欲しいというアピールがありました。また、エルマー・クロウ賞を受賞した長谷川あやこワイズ(東京八王子)に、参加者の前で受賞盾が贈られました。催しとしては、音楽家、嘉村えりか・ゆりえ姉妹によるピアノの連弾が聴衆を魅了しました。嘉村姉妹は、ウクライナ在住ということで、ウクライナについての紹介の中で、かつての名横綱大鵬のお父さんがウクライナ出身という説明があった時には、驚きの声が上が

ったのが印象的でした。この催しの総合司会をされた、東京世田谷クラブの小川圭一ワイズから、嘉村姉妹演奏会のDVD購入によるウクライナ支援への協力要請が強く訴えられていたので、私は、一枚購入して、会場を後にしました。往復の地下鉄の中で「おどろきのウクライナ」大澤真幸・橋爪大三郎対談集を、より親近感をもって読み進めました。



嘉村えりか・ゆりえ姉妹 ピアノ演奏



絵本“てぶくろ”を示す古賀博牧師



アジア太平洋地域沈洪銘会長

国際の舞台から “Keiko’s Monthly Briefing of YMI/ASP”

フィリピン訪問記

利根川恵子

1月13日から18日まで、2つの主な目的のために、フィリピンを訪問しました。

1つめの目的は、アジア太平洋地域の YMI 設立 100周年記念事業の1つである、グリーンアクティビティ・プロジェクトのマカティ YMCA ソーラーパネル設置事業が完了し、記念碑の除幕式に参加するためでした。

1月13日にマカティ YMCA に到着して、まず目に飛び込んできたのは、入口に掲げられた、元アジア太平洋地域会長 (David Lua)、直前会長 (大野勉)、現会長 (Charming Shen) と次期会長 (私) の顔写真入りバナーでした。半端ない歓迎ぶりです。



1月14日、除幕式に先駆けて、マカティ YMCA の理事就任式が行われたのですが、4名の外部からの司式者を招き、一人一人がキャンドルを持って前に歩み出て、理事としての任務と責任を覚えて就任を誓うという厳かなものでした。

その後、YMCA の入口に取り付けられた記念碑を

YMCA の会長、議長とともにアジア太平洋地域の代表として元、直前、現、次期の4名の会長がロープを引いて序幕を行いました。

このソーラーパネル設置の経費は、5万8千ドルだったそうですが、国際から1万1千ドル、アジア太平洋地域から1万1千ドルが寄付されました。アジア太平洋地域には削減される電気代から5年間にわたり、毎年2,500ドルずつ返還されることになっています。設置後1年以上が経ちましたが、ソーラーパネルと電球をLEDに変えることによってマカティ YMCA は電気代の40%削減を実現したそうです。アジア太平洋地域にもすでに2,000ドルが寄付され、地域のグリーンファンドに繰り入れました。



この序幕式は、下記のマカティ YMCA の YouTube でご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=Knh910A5rzY>

翌日、15日、いよいよパンガシナンに向け、朝5時に出発です。スポンサー・クラブであるマニラダウンタウン・クラブのジェイソン・マゴス会長が、奥様のキャロリンさん、妹のシェリーさん、甥のアンダーソンさんとともに車でお迎えに来てくださり、4時間半のドライブとなりました。ジェイソン会長が同行してくださるのには理由があり、パンガシナン YMCA、パンガシナン・クラブがサポートしているプガロ・スイート村の女性縫製グループのミシンが古くなったので、新しいミシンを購入し、当日贈呈式を行うためでした。

パンガシナンに着き YMCA ホテルにチェックイン後、早速、狭くて舗装もない道を約1時間走り、6,000人の村民が住むプガロに到着しました。村の公共施設の一部屋でミシン3台を駆使して縫製を行い、利益を上げて、女性の自立と地域の活性化に貢献している「ソーイング・マザーズ」というグループを訪問し、昼食をとりました。この昼食はフィリピンの伝統的なピクニック形式で、バナナの皮を敷き、その上に食べ物を置いて、手でいただくものでした。パンガシナンクラブ会長・ジョン・サモラさんの主催でした。

贈呈式のため、お部屋に入ってみると、天井が落ちかけていて、ミシンの次に、天井を修理し、電灯を設置してほしいとの要望が出されました。マゴス会長は配管業の会社の経営者であり、建築にも詳しいので、協力を約束していました。今後、川越クラブがパンガシナン・クラブとIBCになったとしたら、支援をする意義のあるプロジェクトであると思います。パンガシナン YMCA のディケアの子どもたちの制服もここですべて縫製しています。

YMCA に帰着後、持参した川越クラブと大澤和子さんのビデオをパンガシナン・クラブのメンバーに見ていただき、喜んでいただきました。ビデオはコピーされ、欠席の方々には別途見る機会を設けてくださるそうです。

パンガシナン・クラブのメンバーは、ほとんどがYMCAの理事で、さらにほとんどの方が埼玉への訪問経験者です。埼玉YMCAとパンガシナンYMCAの繋がりや強さ、深さを感じます。さらにワイズメンズクラブ同士がつながって支え合えば、ワイズ運動の推進も約束されています。パンガシナン・クラブのメンバーもIBCには積極的で、台北の100周年記念行事にも何名か参加したいとの希望が出ました。今後、両クラブが密に連絡を取り、提携に向けて準備していくことを強く希望し、クラブ内の担当としてみなさまのご賛同をお願いいたします。

YMCA報告

河合今日子

<冬休みの特別プログラム>

今年の冬休みは3年ぶりに外出の活動を再開し、たくさん子ども達がYMCAの活動に参加しました。久しぶりに電車に乗る子や初めて焼き芋を食べる子、陶芸体験をする子など様々で、その傍らにいつも一緒にいてくれる学生リーダーたちの姿がありました。何かと一緒にチャレンジしたり、一緒に笑い合い、楽しんでくれるリーダーの存在は、こどもたちにとってとても大きなものです。今年は、川越センター所属のリーダー3名が成人を迎えます。今後の例会でぜひ彼女たちの抱負を語ってもらいたいと思います。



わくわくグローバルフェスタ2023

出逢い、つながり、未来へ
～共に未来を創る仲間として～

参加
無料

～あなたができるSDGsを探してみよう～
オンラインまたは会場参加のハイブリッド方式

日時

2023年2月11日(土)
13:30～16:00(13:00入室)

会場参加
先着60名

平和な世界を求めて～「テレジンの子どもたち」を語りつく



講師：野村路子 ノンフィクション作家 作家
1937年東京生まれ。59年早稲田大学第一文学部仏科卒業後、新聞・雑誌に、ルポルタージュ、エッセイなどを執筆していたが、89年、旅先のブラハで、アウシュヴィッツで殺された子どもたちが、テレジン収容所にいた時に描いた絵と出会い、日本で紹介したいとチェコ国立ユダヤ博物館と交渉、貸し出しを受け、91年から『テレジン収容所の幼い画家たち展』開催。
以来30年にわたり継続、その間に、数少ない生還者へのインタビューを重ね、『15000人のアンネ・フランク』『テレジンの小さな画家たち』(産経児童出版文化賞大賞受賞)『子どもたちのアウシュヴィッツ』フリードール先生とテレジンの子どもたち『写真記録アウシュヴィッツ(全6巻)』など著書多数。

オンライン会議ツールZOOMを使用します。
お申し込みフォームはこちらにご記入してください。

<https://forms.gle/EECd4F9dhMemV5Jv6>



お申し込みQRコード

オンライン

フォームからの申し込みができない方は、
①氏名 ②連絡先(電話番号) ③E-mail ④Web 又は 会場を選択
⑤英語選択機の使用希望の有無(会場参加の方のみ)
をご記入の上メール ieo@stib.jp までお送り下さい。
2月8日(金)までにお申し込み下さい

(公社)さいたま観光国際協会 国際交流センター

☎:048-813-8500 FAX:048-887-1505 Mail:ieo@stib.jp

会場参加

浦和コミュニティセンター 第15集会所
(R浦和駅東口駅前浦和パルコ上コンナール9階)

マスク着用
受付にて手指アルコール
除菌と検温を実施します

主催：さいたま市国際NGOネットワーク
共催：さいたま市、(公社)さいたま観光国際協会
後援：さいたま市教育委員会、(公財)埼玉国際交流協会、(公財)埼玉YMCA、埼玉異文化セブ協会



(編集後記)

諸般の事情から、昨年12月号「希望の鐘」を発行できなかったことをお詫びいたします。このbulletinを昨年12月号と今年1月号の合併号としてお読み下さい。次月からは、毎月の発行に努力しますので、皆さんの寄稿を期待いたします。

私は、幸い、体調が順調に回復しています。退院時6kg減った体重は4.5kg戻りました。年末には、家族恒例の群馬のスキー場近くの民宿に2泊してきました。歩数計が15,000を超える日もあります。

新年にあたり、山本会長の「巻頭言」に励まされます。又、利根川恵子ワイズのフィリピン報告は、新年に相応しい明るい話題です。

川越クラブ25周年。埼玉YMCA50周年の年が川越クラブメンバーの皆さんにとって良い思い出の年となりますよう祈ります。(K. Y.)

野村路子さんの講演会のお知らせ

利根川恵子

川越市在住で私達のクラブでの卓話もしてくれた、野村路子さんの講演会がさいたま市国際NGOネットワーク主催で開催されます。無料でZoom参加も可能です。

テーマ：平和な世界を求めて「テレジンの子どもたち」を語りつく

日時：2月11日(土) 13:30～16:00

場所：JR浦和駅東口浦和パルコ9階

申し込みフォーム：

<https://forms.gle/EECd4F9dhMemV5Jv6>